長い坂道 登るのは一人じゃない

教育学部同窓会長
臼杵　勇人

日頃より教育学部同窓会の活動にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。また、三年間に渡ってコロナ感染拡大防止の徹底にご尽力されてきた皆様に心より敬意を表します。

収束の見えないコロナ禍ではありますが、令和三年度の卒業式ならびに令和四年度の入学式を三年ぶりに卒業生、入学生及び式典関係者のみの参加で朱鷺メッセにおいて挙行することができました。教育学部の卒業生二一八名の内、四月から新採用として新潟市の学校に着任した十数名の方にお会いすることができました。大学時代はオンライン授業で苦労も多かったようですが、教職員としてのスタートを迎えることができた喜びと意欲に満ちた眼差しに接することができ、大変嬉しく思いました。「子どもたち一人一人の心に寄り添った指導・支援、学級経営を頑張ってください」とエールを送らせていただきました。

教育学部にも希望に満ちた一八〇人の新入生、そして十五人の教職大学院生を迎えることができました。本年度の授業は、ハイブリット形式は変わらないものの、約七割は対面式授業を計画して実施するそうです。

全国の各学校でも、年度当初から緊張感をもってコロナ対策を行い、児童・生徒の生命と健康を守るとともに、充実した授業づくり、楽しい学校生活づくりに向け、着実で創意工夫ある取組をしていることでしょう。

コロナ感染と混沌とする世界情勢の影響が色々な形で日本や学校教育にも及んできている今、さだまさしの歌「奇跡～大きな愛のように～」を思い出します。

「どんなに切なくても必ず明日は来る。長い長い坂道登るのはあなた一人じゃない」

大学と学生を支援する同窓会がいつもそばに居て応援しています。これからも持続的で充実した運営と各種事業の推進のため、皆様の更なるご支援とご協力を心よりお願いいたします。

花鳥風月

「授業中は子どもの表情の変化とつぶやきを見逃すなよ」というのが先輩の口癖であった。

先日、ある授業を参観する機会があった。子どもたちがタブレットを用いて動画を撮ったり、自分の考えをまとめたりし、慣れた手つきで教師にデータを送信する姿が印象的であった。

一方で気になったのは、「教師は子どもたちの表情を見ていただろうか」ということである。

子どもたちのタブレット画面を確認しながら机間指導をし、話合いをさせている間に受信したデータを必死に分類している教師の様子を見ながら、私は先輩の口癖を思い出した。

子どもたちには、対人関係における感受性も大切にしてほしいと思っている。それは、子どもたちの前に立つ教師に対しても同じである。

これからの授業に求められる教師像とはどのようなものか、この機会に改めて考えてみたい。

（総合教育センター　音田　和行）

情報交換　情報発信

新潟大学
教育学部同窓会
ホームページ

令和４年度　専門部活動計画

研修部

部長　坂内　徹

一　研修部活動計画

研修部では、同窓生が親睦を深めるとともに自己の人間的な資質を高めることを目的に本年度事業を次のように計画いたしました。多数の皆様の参加をお願いいたします。

二　事業内容

「第四十七回　同窓生の集い」

・期　日　十月一日（土）

・会　場　アートホテル新潟駅前
　新潟駅南口直結

・講演会
　十五時十五分～十六時四十五分
「合言葉は
　明るく前向きに！
　しなやかにたくましく！」

・講　師
　新潟市教育委員会
　前教育長　前田　秀子　様

・懇親会
　十七時～十九時

申込等詳細は十ページをご覧ください。
皆様の参加をお待ちしています。

広報部

部長　保坂　章夫

一　基本方針

○同窓会の活動や会員の声、大学との連携を密にした広報活動を推進する。

○四色刷りカラー印刷を継続して発行する。

二　活動内容

「教育新報」年間二回発行

○第一八三号（七月二十日発行予定）
巻頭言、花鳥風月、令和四年度専門部活動計画、同窓会本部役員・支部長・学科代表一覧、令和三年度決算報告、令和四年度予算、大学コーナー、教職大学院実践報告、同窓生の集いの宣伝

○第一八四号（二月二十日発行予定）
巻頭言、花鳥風月、「全学同窓会交流会」「大学との懇談会」等の各報告、学科や支部の活動紹介、学校紹介（小・中・特支学校）、会員の広場、大学コーナー

三　その他

○昨年度同様、コロナ感染状況に応じて掲載内容を変更していく。

組織部

部長　長沢　剛

一　活動の重点

（一）事務局及び学部、教職大学院（教育実践学研究科）と連携し、会員の連帯意識の高揚に努める。

（二）事務局、支部長、学科代表と連携し、永年会員となる学生及びその保護者、既に永年会員である現職に対して、同窓会員である意識を高めるとともに、同窓会活動への理解を得るように努める。

（三）各専門部と連携し、各事業の組織運営に関わるサポートを行う。

二　活動の内容

（一）支部長会及び学科代表者会の開催

・例年、評議会終了後、学科代表者会と支部長会を同時時程で開催していたが、昨年度に引き続き、今年度も行わない。

（二）交流部事業カミングホームデイを開催する場合のサポート。

（三）研修部事業講演会での講演会を開催する場合のサポート。

三　その他

・事務局と連携し、学部入学生、学部卒業生（教職以外の職に就いた方を含む）、支部長、学科代表者とのつながり強化に努める。

交流部

部長　永井　高志

交流部は、令和四年度、次の三つの活動を計画しています。会員の皆様のご理解ご協力をお願い致します。

一　カミングホーム・ディの開催

卒業生・修了生の現状や学部・教育実践学研究科への要望、同窓会活動への提言等について情報交流を行う。

二　新潟大学教育学部並びに教育実践学研究科と同窓会との「懇談会・懇親会」の開催

互いに現状を報告し、要望を述べ合い、交流を深め、意思の疎通を図る。

○大学学部・教育実践学研究科の現状と主な取組について

○卒業・修了生の就職状況や現場との連携について

○同窓会活動への提言等

三　各種教育関係機関や他団体等との連携の促進

全学同窓会主催の「新潟大学全学同窓会交流会・懇談会」への参加を促す。

令和４年度　同窓会本部役員

☆印は新役員

役職		氏名	支部	校名など
会長		臼杵　勇人	新潟東	自宅
副会長		小林由希恵☆	新潟南	味方小学校
		近藤　幸栄☆	新発田	二葉小学校
		糀谷　正夫☆	長岡西	大島小学校
		小泉　浩彰☆	新潟北	岡方中学校
事務局		杉山　和敏	新潟西	教育学部同窓会事務局
		高橋　円		
専門部	研修部	◎坂内　徹☆	新潟北	南浜小学校
		○小泉　慎子	新潟西	坂井東小学校
		志田江利子	新潟東	牡丹山小学校
		間　裕太	新潟北	早通中学校
	広報部	◎保坂　章夫	新潟江南	曽野木小学校
		○栗田　貫☆	新潟西蒲	岩室小学校
		音田　和行	新潟西蒲	新潟市立総合教育センター
		若月　利春	新潟西蒲	岩室小学校
		髙橋　新一	新潟東	木戸小学校
		國井恒太朗	新潟中央	紫竹山小学校
	組織部	◎長沢　剛	新潟秋葉	矢代田小学校
		○古井丸裕三	新潟東	東区教育支援センター
		樋口　大輔	新潟西蒲	曽根小学校
		加藤　雅晃	新潟北	松浜小学校

役職		氏名	支部	校名など
専門部	交流部	◎永井　高志	新潟中央	新潟市こども創造センター
		○諸橋　智☆	新潟西	五十嵐小学校
		古川　智子	新潟秋葉	新津第一小学校
		藤田　凌	新潟中央	上所小学校
監事		石塚　智久	新潟秋葉	新関小学校
		川又　由香☆	新潟中央	南万代小学校
		牧野淡紅恵	新潟秋葉	秋葉区教育支援センター
顧問		中川　幸次	県外	自宅
		江口　直禎	新潟中央	自宅
		大関　雄策	新潟中央	自宅
		磯辺　浩昭	新発田	自宅
		藤井　保男	新潟東	自宅
		斎藤寿一郎	新潟東	自宅
		佐藤　重勝	新潟秋葉	自宅
		安達　徹	新潟秋葉	自宅
新潟大学全学同窓会	理事	臼杵　勇人	新潟東	自宅
	運営委員	加藤　文子	新潟江南	自宅
		山下あい子	新潟西蒲	自宅
		畠山　典子	新潟西蒲	自宅
		岡村　浩	大学	新潟大学経済科学部

令和４年度　同窓会学科代表

☆印は新代表

	学科名	学科代表	校名など
1	国語	三村　孝志	猿橋中学校
2	地理	西方　俊也	大淵小学校
3	歴史研究室	高橋　裕幸	巻北小学校
4	経済	小庄司一泰	小須戸小学校
5	哲倫	清野　真輝	真砂小学校
6	社会	土田　宏美	内郷小学校
7	算数・数学	小竹　智	月潟中学校
8	物理	茂呂　良彦	自宅
9	化学	栗林　操	田上中学校
10	生物	八百板恵理子	新潟市教育相談センター
11	地学	横山　雅史☆	山北中学校
12	英語	峯島　道夫☆	新潟県立大学国際地域学科
13	音楽	斎藤　隆	白南中学校
14	美術	永井　高志	新潟市こども創造センター
15	保健体育	石見　洋☆	大形小学校
16	家庭［萌木会］	長谷川道子	自宅
17	職業指導	松村　明彦	自宅
18	教育	山岸　真夫	自宅
19	教育心理	岡田　義則	早通小学校
20	技術	倉島　陽介☆	新潟柳都中学校
21	特別支援教育	樋口　杏子	附属特別支援学校
22	養教特別別科	若月ひとみ☆	七葉中学校
23	幼児教育	近藤　和徳	西幼稚園
24	学社ネットワーク	小柳加奈子	自宅
25	生活科学	遠山麻依子	光晴中学校
26	生活システム	大森　山	城北中学校
27	健康スポーツ	大口　良平	新井小学校
28	書道	岡村　浩	新潟大学経済科学部

令和４年度　同窓会支部長

☆印は新支部長

地域		支部	支部長	校名など
上越	1	上越	鹿目　功二☆	県立上越特別支援学校
中越	2	長岡東	長谷川成生☆	中越教育事務所
	3	長岡西	鴨井　巌☆	青葉台小学校
	4	三条	石原　淳一☆	笹岡小学校
	5	柏崎・刈羽	川上　節夫☆	日吉小学校
	6	小千谷	稲田真砂美	総合支援学校
	7	加茂	佐藤　康子	須田小学校
	8	十日町・津南	庭野　紀元	東小学校
	9	見附	小林　雄二	見附小学校
	10	燕	坂内　克明	分水北小学校
	11	魚沼	大塚　育子	小出小学校
	12	南魚沼	阿部　一之	五十沢小学校
	13	弥彦	白川　亮治	弥彦中学校
	14	田上	荒井　純☆	田上小学校
	15	湯沢	小見芳太郎	湯沢小学校
	16	出雲崎	五十嵐　悟	出雲崎小学校
下越	17	新潟北	竹田　暢美	岡方第一小学校
	18	新潟東	伊藤　紀幸	下山小学校
	19	新潟中央	根岸　恵美	万代長嶺小学校
	20	新潟江南	川口由美子	東曽野木小学校
	21	新潟秋葉	間　由香利	小合小学校
	22	新潟南	阿部　祐子	根岸小学校
	23	新潟西	山口　潤☆	黒埼南小学校
	24	新潟西蒲	笛木　晶子	潟東小学校
	25	新発田	関川　紀博☆	七葉小学校
	26	村上	松田　洋平	村上小学校
	27	五泉	石田　雄介	五泉南小学校
	28	阿賀野	樋口　憲哉	水原中学校
	29	胎内	伊東　寿明	築地中学校
	30	聖籠	若狭　陽一☆	山倉小学校
	31	阿賀	大森　亨	三川小学校
	32	関川	髙井　那弥	関川小学校
	33	粟島浦	久保　智音☆	粟島浦中学校
佐渡	34	佐渡	藤井　衛☆	真野小学校

令和３年度　一般会計決算報告

1　収入の部

	項　目	R3 年度収入額	R3 年度予算額	比　較	摘　要
1	繰　入　金	7,000,000	7,500,000	▲ 500,000	第四北越銀行総合口座から繰入２回分（6000000+1000000）
2	雑　収　入	64,001	0	64,001	銀行利息、郵貯定期利子・・一般利息の合計（12+17+63972）
	合　計	7,064,001	7,500,000	▲ 435,999	

2　支出の部

（▲は残額）

	項　目	R3 年度執行額	R3 年度予算額	残　額	摘　要
1	会　議　費	28,210	60,000	▲ 31,790	会計監査のみ　他の会議が中止のため執行なし
2	旅　費	12,140	70,000	▲ 57,860	会計監査参加者
3	助　成　費	111,940	400,000	▲ 288,060	学科助成、支部助成、同期の会助成
4	事　務　局　費	1,403,345	1,500,000	▲ 96,655	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、機器更新、通信費等
5	研　修　費	3,938	350,000	▲ 346,062	教育新報研修関係取材費
6	広　報　費	753,910	790,000	▲ 36,090	機関紙発行２回、記事謝礼２回、パンフNo. 11 作成
7	組　織　費	350,625	200,000	150,625	クリアファイル増刷
8	交　流　費	0	200,000	▲ 200,000	交流会企画運営費・経費、カミングホームディ　中止のため
9	大学・学生支援費	176,580	900,000	▲ 723,420	研究会助成、卒業制作展助成、カレンダー作成 教育学研究科助成、附属校研究発表会
10	奨　学　金	751,600	750,000	1,600	大学院教育実践学研究科現職院生奨学金（5 × 150000）、会長旅費
11	全学同窓会費	455,830	450,000	5,830	全学同窓会負担金
12	人　件　費	1,800,000	1,800,000	0	事務局報酬２名
13	その他予備費	110,605	30,000	80,605	全学教職支援センター助成金、新潟教育会助成金、渡辺副会長香典、振込手数料
	合　計	5,958,723	7,500,000	▲ 1,541,277	

3　残高の部

7,064,001 － 5,958,723 ＝ 1,105,278 円　　＊残金は年度末総合口座に繰り入れます。

令和３年度　総合会計決算報告

1　収入の部

（▲は予算に対して減）

	項　目	R3 年度収入額	R3 年度予算額	比　較	摘　要
1	繰　越　金	35,972,041	31,390,487	4,581,554	前年度繰越金（第四総合口座前年度末残金）
2	学校会員会費	2,128,136	2,600,000	▲ 471,864	会費　- 振込手数料 - 印字手数料
3	個人会員会費	137,485	160,000	▲ 22,515	会費　- 振込手数料
4	永年会員会費	4,320,063	3,000,000	1,320,063	会費　- 振込手数料
5	繰　入　金	1,105,278	0	1,105,278	一般会計への繰出金後の残金
6	雑　収　入　①	593	0	593	第四北越定期利息　6-27
7	雑　収　入　②	128	0	128	第四北越総合口座利息
8	雑　収　入　③	130	0	130	第四北越総合口座利息
	合　計	43,663,854	37,150,487	6,513,367	

2　支出の部

	項　目	R3 年度執行額	R3 年度予算額	比　較	摘　要
1	一般会計繰出金	7,000,000	7,500,000	▲ 500,000	第四北越銀行総合口座から繰入２回分（6000000+1000000）
2	振込手数料等	5,226	0	0	郵貯からの手数料等総計・前年度貸出金（1483+2863+880）
	合　計	7,005,226	7,500,000	▲ 494,774	

3　残高の部

43,663,854 － 7,005,226 ＝ 36,658,628 円　　＊残金は、令和４年度第四総合会計に繰り越します。

大学教官の異動

（昨年度の七月以降）

◎学部を去られた先生

教　授　世取山　洋介（学校教育学）　令和三年十一月十七日　死亡退職
教　授　鎌田　正喜（理科）　令和四年三月末日　定年退職
教　授　小林　日出至郎（保健体育）　令和四年三月末日　定年退職
教　授　宮薗　衛（教職大学院）　令和四年三月末日　定年退職
特任教授　石川　治（教職大学院）　令和四年三月末日　任期満了退職
特任教授　大橋　英喜（教職大学院）　令和四年三月末日　任期満了退職
准教授　尾身　浩光（教職大学院）　令和四年三月末日　任期満了退職
准教授　渋谷　徹（教職大学院）　令和四年三月末日　任期満了退職
准教授　横堀　壮昭（教職大学院）　令和四年三月末日　任期満了退職
特任准教授　田中　雄二（学校教育学）　令和四年三月末日　任期満了退職
助　教　池田　恵子（保健体育）　令和四年三月末日　任期満了退職

◎新しくおいでになった先生

准教授　田代　孝（教職大学院）　令和四年四月一日　採用
准教授　酒井　悟（教職大学院）　令和四年四月一日　採用
准教授　佐藤　大介（教職大学院）　令和四年四月一日　採用

◎昇任された先生

教　授　大庭　昌昭（教職大学院）　令和四年四月一日　昇任
教　授　足立　幸子（国語）　令和四年四月一日　昇任
教　授　橋本　学（美術）　令和四年四月一日　昇任
教　授　工藤　起来（理科）　令和四年五月一日　昇任
教　授　鈴木　賢太（音楽）　令和四年五月一日　昇任

（敬称略）

令和４年度　一般会計予算

（▲は、前年度比較減）

1　収入の部

項目		R4年度予算額	R3年度予算額	増減	摘要
1	繰入金	7,200,000	7,500,000	▲ 300,000	総合会計から繰入れ
2	雑収入	0	0	0	
合計		7,200,000	7,500,000	▲ 300,000	

2　支出の部

項目		R4年度予算額	R3年度予算額	増減	摘要
1	会議費	42,000	60,000	▲ 18,000	本部会、評議会、会計監査会等
2	旅費	172,000	70,000	102,000	本部会、評議会、監査会旅費
3	助成費	270,000	400,000	▲ 130,000	学科助成、支部助成、同期の会助成、学科の集い助成
4	事務局費	1,100,000	1,500,000	▲ 400,000	ヤマト送料、電話・光熱費、印刷代、消耗品等
5	研修費	350,000	350,000	0	集い企画運営費等（会場費、講師謝礼、参加助成等）
6	広報費	790,000	790,000	0	機関紙「教育新報」発行代、同窓会パンフ作成代
7	組織費	200,000	200,000	0	クリアファイル代金
8	交流費	230,000	200,000	30,000	交流会企画運営費、カミングホームディ企画運営費
9	大学・学生支援費	880,000	900,000	▲ 20,000	研究会バス助成、卒業論文発表会助成、卒業祝賀会助成等、カレンダー作成
10	奨学金	750,000	750,000	0	奨学生５名
11	全学同窓会費	490,000	450,000	40,000	負担金、全学理事会・運営委員会旅費等
12	人件費	1,800,000	1,800,000	0	事務局報酬２名
13	その他予備費	126,000	30,000	96,000	全学教職支援センター助成
合計		7,200,000	7,500,000	▲ 300,000	

令和４年度　総合会計予算

（▲は、前年度比較減）

1　収入の部

項目		R4年度予算額	R3年度予算額	増減	摘要
1	繰越金	36,658,628	31,390,487	5,268,141	前年度繰越金（第四銀行総合口座前年度末残金）
2	学校会員会費	2,100,000	2,600,000	▲ 500,000	会費　- 振込手数料
3	個人会員会費	140,000	160,000	▲ 20,000	会費　- 振込手数料
4	永年会員会費	2,400,000	3,000,000	▲ 600,000	会費　- 振込手数料
5	繰入金	0	0	0	＊一般会計への繰出金に残金が出た場合、年度末に繰入
6	雑収入	0	0	0	銀行利息など
合計		41,298,628	37,150,487	4,148,141	

2　支出の部

項目		R4年度予算額	R3年度予算額	増減	摘要
1	一般会計繰出金	7,200,000	7,500,000	▲ 300,000	
合計		7,200,000	7,500,000	▲ 300,000	

事務局だより

□「書面表決」の報告

令和四年度は、コロナウイルス感染防止の観点から６月の「評議会」を中止し、評議員（本部役員・支部長・学科代表）の皆さんから書面表決という形でご意見をいただきました。

本部役員29名、支部長32名、学科代表24名　総計（85名の方々からご回答をいただきましたのでご報告いたします。

□第１号議案（賛成85・反対０）
「令和三年度会務及び決算報告」

□第２号議案（賛成85・反対０）
「令和三年度活動報告及び令和四年度活動方針（案）」

□第３号議案（賛成85・反対０）
「令和四年度本部役員（案）」

□第４号議案（賛成85・反対０）
「令和四年度予算（案）」

※すべての議案についてご承認をいただきありがとうございました。

表記上のご指摘等につきましては、今後本部会等で検討し、皆さんと共有していきたいと思います。

また、秋の「同窓生の集い」につきましては、開催の方向で検討しております。その節には皆様からの多大なご支援をよろしくお願い申し上げます。

佐渡実習・学校と地域連携の学び

新潟大学教育学部准教授　森下　修次

佐渡実習が始まったのは二〇一三年で、以前から行われていた一年次「入門教育実習」における学校現場の実践学習に加え、地域と学校と児童たちがどのように関わっていくのか肌で感じ、さらに地域社会の一員として祭りに参加体験ができる授業として計画された。活動は、佐渡市立河崎小学校（後に佐渡市立両津吉井小学校も加わる）とその校区にある久知八幡宮秋季例大祭および関連地区である。この祭礼には複数の芸能が奉納されるが、新潟県無形民俗文化財に指定されていて児童たちが多く出演する「花笠踊り」、同じく児童たちが演ずる「刀刀」、「下久知鬼太鼓」等があげられる。

小学校における学生たちの活動は「佐渡学」の受講に始まり、児童たちの学習活動の見学、キャリア教育のファシリティーとしての参加、遠足の引率補助等の充実したプログラムが組まれた。元々参加学生５人から始めたプログラムであったが、参加希望者が多く徐々に参加人数を増やしていき、二〇一九年の活動は限度の15人まで増やした。そういったこともあり、二〇一七年からはが、河崎小学校に両津吉井小学校が加わり、学生たちは河崎小班と両津吉井小班に分かれ、それぞれで活動した。

両津吉井小学校の特色として、特別活動として鬼太鼓と能の謡の授業があげられる。学生たちは参観のみならず、児童と一緒に体験することができた。

一～三年生の児童は鬼太鼓を学ぶ。鬼太鼓の舞や太鼓のリズムは集落毎に異なる。児童らが住んでいる集落の伝承者が来校し自分の集落の鬼太鼓を学ぶ。集落の代表として地元の祭りで面・装束を着けて鬼太鼓を舞った女子児童もいた。

四～六年生は宝生流謡と舞を島内在住の専門家から直接指導を受ける。

いずれも本格的なもので、教える方も児童たちも真剣そのものの学びである。こういった経験からも、地域と学校との関係を学生たちに少しでも肌で感じてもらえたのかなと思う。

夕食後は花笠踊りと刀刀の稽古を見学した。児童・生徒たちが地元の大人の指導で真剣に取り組む姿を目の当たりにしたことと思う。なお、花笠踊りは本来城腰地区の男子児童のみの参加が原則だったが、近年は女子児童や他地区の児童も参加しており、河崎小学校の児童のみならず両津吉井小学校の児童も参加していた。

祭り当日は両班一緒に活動した。前日まで学校と稽古で見ていた児童たちのハレの姿を見つつ、早朝から鬼太鼓にも参加した。鬼太鼓の舞や太鼓は相当な稽古を積まなければできないが、地元鬼太鼓保存会が用意してくれた法被を着て学生が即席で獅子を演ずるなど、まさしく「ムラの一員」として活動できた（写真）。なお、祭りに酒はつきものだが一年生なので飲酒は厳禁とした。

これらの活動は学生のみならず、学校にとっても地域にとっても有意義な活動となった。二〇一八年の佐渡実習に参加した富山出身の学生が希望して佐渡市の教員となったことも、佐渡実習の成果といえるかもしれない。

このような地域と学生の関わりによる教育効果は、二〇〇九年から続けている私のゼミの活動経験が元にある。この活動はＮＰＯ法人佐渡芸能伝承機構理事長、松田祐樹氏のコーディネートによるもので、佐渡実習も同様である。

佐渡市豊岡という限界集落で行っている活動で、毎年三月から四月の一週間ほど地区内の古民家に寝泊まりし、地元の方々の指導と世話を受けながら鬼太鼓、大獅子の稽古を積んで春の祭りに披露、門付けするというものである。普段接するようなことのない人と関わりを持つことは学生のコミュニケーション能力を伸ばす力があるらしく、元々現役で教員採用試験合格者が０だった私のゼミの学生が、合宿を始めた年に１名合格し、その後合格者は徐々に増え続け（合格のハードルが下がってきたこともあるが）、二〇二一年の採用試験では豊岡の合宿に参加した４名全員が現役で教員採用試験に合格するまでに至った。

学校と地域との関係重視は学校関係者にとって日常的課題であるが、大学における教員養成についても、こういった課題をどう克服するかしっかり考える時期にきている。やはり良い人材を育てるには、いろいろなところの協力を得ながら手間暇かけることも大事で、引きこもりや問題行動が多い今だからこそ、前向きな検討が必要だと感じている。

小学生時、長木に住んでいた学生の舞を披露（2018）

学生たちが演ずる即席の獅子と鬼との絡み（2019）

地域を愛する心を育成するカリキュラムの編成 ～音楽と総合的な学習の時間の学習を通して～

学校経営コース　　早川　克善（燕市立燕中学校）

大学院１年次の研究は、総合的な学習の時間と音楽を連携させたカリキュラムの見直しを行い，地域の魅力を曲にして発信することで，生徒の地域を愛する心の育成を図ることを目的とした。

前期に行った音楽の実践で，音声合成ソフトを活用して曲づくりをする際，どこまで指導や制限（どの調を用いるのか等）の必要があるのかの検証を行った。その結果、音階に関する指導を行ったうえで創作した生徒の多くが、調性的旋律を創ることができることが明らかとなり、音階の指導の必要性を確認した。

後期では、総合的な学習の時間と音楽を連携させ、職場訪問での学びを、地域の魅力を曲にして発信する。それにより、生徒の地域を愛する心にどのような変化があったのかを、アンケート結果から見取り、その有効性と課題について検証を行った。アンケートは、Google フォームのアンケート機能を使って「地域への愛着尺度」を用いて行った。１回目のアンケートでは「地域のために活動することは自分の楽しみである」と「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の項目に対する肯定的な回答が、他の回答の数値よりも低いことが明らかとなった。

総合的な学習の時間では、燕市の主要産業である、金属加工業と卸売業の４社に職場訪問をし、企業（商品）の魅力、印象に残ったこと、伝えたいことをキーワードにし、それらをもとにキャッチフレーズをまとめた。音楽の時間では、CM ソングの特徴を理解するために、テレビで流れている CM ソングの楽曲分析を行った。創作活動は、５音音階か長音階かを選択した後、音声合成ソフト「synthesizerV」を活用し、言葉の抑揚をもとにしてリズムを考えながら旋律の創作を行った。完成した曲の鑑賞会と投票を行い、選ばれた曲を訪問した企業にデータで送ったところ、「印象に残るテーマソングで会社をアピールしてくれる様な曲を作って頂き嬉しく思いました。」「耳に残りやすいメロディーでとても良かったです。」といった感想が寄せられた。

職場訪問のまとめの時間に、「”地域へ愛着”尺度」をもとにしたアンケート調査を行い、分散分析を行ったところ、有意差を認めることができなかった。しかし、各項目の平均値では、全ての因子で上昇が見られた。１回目のアンケートで、特に低かった地域に対して主体的に関わるに項目に対する肯定的な回答も、わずかであるが上昇が見られた。今回の実践で有意差を認められなかったことは、短期的な取組みであったことが考えられるため、長期的で系統的な取組みにしていく必要があると考える。

教職大学院生　１年目の実践報告

「令和の日本型学校教育」の構築に向けた ICT 活用の実践

学校経営コース　　込山　翼（新潟大学附属長岡小学校）

本研究は，ＧＩＧＡスクール構想実現のための校内組織マネジメントについての在り方を探ることを目的としている。

GIGA スクール元年から１年あまり。しかし，多くの教職員はこの GIGA スクール構想に対して具体的にどのような方法で対応していいかわからない現状がある。そのため，学校現場では，授業で一人一台端末が活用されるまで，まだまだ時間がかかる様相が見られる。また，「ICT を活用し授業を進める教諭」と「ICT を活用せず授業を進める教諭」の二極化の様相も見られつつある。この教職員の二極化により，「ICT を活用するクラスの児童」と「ICT を活用しないクラスの児童」の情報活用能力に差を生み出し，教員が作り出す子供の二極化傾向も見られる。

そこで，本研究はＧＩＧＡスクール構想実現のための校内組織マネジメントについての在り方を探し，学校での ICT 活用を推進していくことを目指している。

そのため，授業における ICT 機器の活用や校務の軽減，学校における ICT マネジメントを推進するために，在籍校の情報部において「GIGA 推進チーム」を立ち上げた。これは，情報主任を核に，

「①授業研修部門　②情報発信部門　③情報モラル教育部門」

の 3つのカテゴリーに分け，校内の ICT 活用を円滑に進めることを意図した推進基盤体制となる。

今までのように情報主任がすべてを行うのではなく各カテゴリーの情報部員が責任者として計画を進めていくことで一極集中型から校務分散型にシフトした。教員は異動を伴うため，主任が異動すると次年度の活動に大きく影響を与える側面も多くあった。校務分散型にシフトすることで，複数人体制での活動を組織できるため，次年度の活動への大幅な影響もない。

この先の学校教育の中核となっていく ICT 教育が，教育現場に根付くものとなるように研究を進めていきたい。

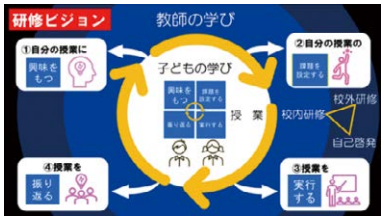
学び続ける教師を育む校内研修の在り方
学校経営コース

田村 友教（新潟市立白新中学校）

私はこれまで、研究主任として校内研修に取り組む中で「教師一人一人の自律的な学びをどう引き出すか」に問題意識をもってきた。

これまでの校内研修を振り返ると、研究推進部で検討した研修テーマをもとに、研修の内容・方法を共有し、組織的に取り組む中で集団としての学びにつなげてきた。しかし、教師一人一人に着目してみると、研修内容と学びたいことが一致しない場合があることや受動的な学びの姿が見られ、教師一人一人の力量形成につながる研修になっているかに疑問を感じていた。

そこで、教職大学院１年目の研究では、若手･中堅･ベテラン教師が共に学び合う協働的な学びをベースにしながら、教師一人一人の自律性に働きかける個別最適な校内研修に取り組むことにした。具体的には、授業改善に焦点をあて、４つのプロセスをもとに教師一人一人の自律性をサポートする校内研修を実践した。また、研究推進部も教師の行動をコントロールするのではなく、教師一人一人の自律性を支援する関わり方にシフトしながら進めた。



＜４つのプロセス＞

① 自分の授業に興味をもつ
　互いに日常の授業を参観し合い、互いのフィードバックを通して、自己の授業課題を見つめ直した。

② 授業の課題を設定する
　教師一人一人が授業課題を選択・自己決定できるようにした。

③ 授業課題の解決に向けて実行する
　研修グループの意見交流を通して作成した教師一人一人の研修計画をもとに授業改善を実践した。

④ 授業を振り返る
　教師一人一人が学びを振り返り、互いの学びをアウトプットする研修を通して学びを深めた。

１年目の実践の成果として、アンケートの変容や学びの姿から、教師一人一人の自律的な学びに成果が見られた。研究２年目は、教師一人一人の自律的な学びをベースに、教育ビジョンと結びつけた校内研修を実践し、学び続ける教師に向かう校内研修を実現したい。

教職大学院生　１年目の実践報告

小学校外国語活動における協同言語学習の導入と効果について
教育実践コース

山際卓也（新潟市立亀田小学校）

本実践は，外国語教育の導入期である外国語活動において必然性のある協同言語学習（Cooperative Language Learning　以下 CLL）が児童の学習参加にどのような効果を及ぼすのかを検証することを目的とした。

１年目では授業実践を通して児童の課題従事－非従事行動を指標とし，授業課題への「取り組みやすさ」の向上，「より主体的な参加」の形成に及ぼす効果の検証の相方を試みた。その中で，上手く活動が成立しないグループや何をして良いのか分からないまま参加している児童の様子も見られた。そこで，CLL がより効果的に機能するのはどのような状況下なのかを検証するため，①一貫したテーマに基づく仮想ミッション解決型言語活動（ヴァーチャル世界旅行）における CLL の有無による比較②児童の課題従事－非従事行動を一分間のタイムサンプリングにより厳密に評価，分析という手立てを講じた。

タイムサンプリングによる児童の課題従事行動や実践での様子から，CLL と想定した活動を取り入れれば一時的には従事行動は増加するが，外国語活動そのものの従事行動を増加させる効果までは現れなかった。しかしグループで取り組む必然性を児童自身が感じられた実践では全ての抽出児（5 名）の課題従事行動が表出した。つまり，CLL の活動自体の必然性を児童自身が見出し，感じることが重要であることが検証できた。

外国語活動の主たる目標はコミュニケーションを自分から図ろうとする力を育成することにある。そのためには児童自身が「グループでやってみたい，他者の助けがあった方が自分にとっても良い」と感じられるような課題の仕掛けや，解決した時の達成感を周りと共有できるような活動を仕掛ける必要がある。自身の実践では児童が意欲的に取り組める目的意識，相手意識の明確な仮想ミッションの設定を手立てとして講じたが，仮想ミッションの設定は児童がやってみたい課題と必ずしも一致するとは限らなかった。よって，２年次には引き続き目的意識，相手意識の明確な必然性ある CLL とはどのような活動となるのかを追求していきたい。

・CLL導入、未導入の実践の概要

単元を通した場面設定（ヴァーチャル世界旅行）					
単元	Unit5	Unit6	Unit7	Unit8	Unit9
仮想ミッション	出国。ALTからの持ち物検査にTRY	in USA.アルファベットで書かれた看板から目的地に行こう	in Italy. ALTの好みに合わせたピザとパフェを作ろう	in Canada. ALTの校長先生を学校のお気に入りの場所へ案内して紹介しよう	in Hawaii. ハワイの学校に留学して一日の紹介ビデオを作ろう
主な学習活動	チャンツやリスニング クイズやゲーム的な活動による英語表現の習得 ペアでの言語活動　ALTと個別信のやりとり				
CLLの導入	×	×	グループで食材カードを交換しながら協同して作成	×	グループごとで1日の紹介ビデオを作成

知的特別支援学校での活動意欲を維持もしくは向上できるような授業の開発
教育実践コース　宮田　郁矢子（東特別支援学校）

本実践は、知的障害特別支援学校に在籍する子どもの意欲を維持、もしくは高めるための授業開発をすることを目的としている。

文献調査から、特別支援学校においてはICTの活用により、子どもの困難の改善・軽減につながる実践が見られるようになったが、効果を実証した研究の蓄積はまだ不足している現状であることが分かった。そこで、１年次ではICTを用いた実践の開発を知的障害特別支援学校において２度行った。なお、「子どもたちの意欲的な取組が見られる授業の実現をどう図るか」に関心があるため、子どもの意欲に焦点を当てた実践開発を行った。

研究Ⅰでは、A特別支援学校小学部の児童を対象に、プログラミングアプリの活用が、子どもの意欲を向上させるかどうかを調べることを目的とした。「画用紙での創作活動」「プログラミングアプリ『Viscuit』での創作活動」を取り入れた実践を行った。プログラミングアプリの活用時に「離席の回数」が減少し、「作品の数」と「目線の数」のそれぞれが増加したことから、児童の意欲を向上させたことが示唆される。

研究Ⅱでは、B特別支援学校小学部の児童を対象に、学校・家庭相互でタブレット端末を活用することが、子どもの意欲を向上させるかどうかを調べることを目的とした。授業で提示した動画を、タブレット端末を活用し帰宅後に家庭でも視聴できるようにし、個別の指導計画をもとにした児童の課題従事行動の回数を調べた。その結果、普段学校や家庭で動画を視聴する児童にとって、授業内容の関心を持たせることに有効であることが分かった。しかし、意欲の向上、維持に関してはさらなる検討が必要であることが分かった。

１年次では、ICTを用いた手立てが子どもの意欲向上に有効であることを確認できた。しかし、それは全員ではなく一部の子どもに見られる成果であった。また逆に活動の意欲を維持することができない子どもの姿も見られた。そこで２年次の研究では、ICTの活用に限らない、子どもの意欲を高める手立てを検討していく必要があると考えた。子どもたちが自分から学びたいと思えるような授業ができるよう、２年間の成果と課題をまとめる。

会員の広場

「キャリア」を見つめ直して

紫竹山小学校
國井　恒太朗

「私たちは自分の好きなことを仕事にしているのです。」

子どもたちを目の前に、生き生きとした笑顔でそう話す美容師の方の言葉は、子どもたちだけでなく私にも強い印象を残した。

勤務する小学校では、秋になると六年生を対象に様々な業種の方を招いてキャリア教育の講座を行っている。プロの方から仕事への思いや技術を聴くことは、子どもたちにとって新鮮で有意義な時間である。

教職に就いて十二年あまり。道徳や外国語の教科化、ＩＣＴ端末の導入、そして感染症対策。時代の流れにより、教育現場は大きく変化した。

しかし、「好きなことを仕事にしている。」という事実は年月が流れても変わらない。そして、今後も変わらないものでありたい。仕事への喜びや楽しさを一番身近に伝えられるのは教職員にほかならない。

半分隠れた顔。それでも、瞳を輝かせ、笑顔で子どもたちに接し、魅力的な仕事であることを伝えたい。

そう思ってコーヒーを入れ、梅雨の曇天からもれる陽ざしに視線を向ける日曜日の午後。

みんなで楽しく前向きに

新潟市立曽野木小学校
髙橋　菜穂美

現任校は、今年で創立１５０周年を迎えます。まだ、コロナ禍ではありますが、この記念すべき年を「みんなの創意工夫で学校行事を進めて行こう」と全職員が一枚岩となって四月が始まりました。

五月。この二年間、学年ごとに開催していた「スポーツデー（運動会）」を、今年は、応援合戦やリレー、地域の方との天野甚句などを三年ぶりに復活させ「１５０周年記念運動会」として行いました。

連休明けからの二週間は、運動会一色でした。種目を盛り上げる企画や子どもたちの活躍を伝え合う会話で、放課後の教務室は大いに盛り上がりました。「忙しくて大変」とも言えますが、私は、全職員が一丸となる感じがして、このバタバタ感は大好きです。結果、笑顔あふれる子どもたちの活躍、地域の方のふれあいがたくさん見られた運動会になったことは、みんなの前向きな姿勢があったからだと思います。

何事も、「みんなで楽しく前向きに！」を合言葉にして、これからも頑張っていきたいです。

第47回 同窓生の集い

講演会

「合言葉は、
明るく前向きに！
しなやかにたくましく！」

講師

新潟市教育委員会
前教育長
前田　秀子　様

令和4年 10月1日（土）14:30～
アートホテル新潟駅前
新潟市中央区笹口 1-1
TEL 025-240-2111

新潟市教育委員会 前教育長 前田 秀子 様をお迎えしての講演会です。前田 秀子 様は、新潟大学教育学部第 28 期卒業生でおられ、高田分校で学ばれました。当時の思い出やとっておきのお話もお聞きできるかもしれません。教育にかかわる全ての皆様へのエールとなることまちがいなし！同窓会員の皆様、市民の皆様の参加をお待ちしています。

【日程】
受付　14:30～
開会式 15:00～
15:15
講演会 15:15～
16:45
懇親会 17:00～
19:00

【入場料】無料
※懇親会参加費
3,000 円

○ 講演会、懇親会ともに**９月９日(金)までに**お申し込みください。
○ **定員先着 50 名**とさせていただきます。
○ 期日前であっても、定員に達した場合申し込みを締め切る場合がございます。

主催 新潟大学教育学部
同窓会

【申し込み・問い合わせ先】
新潟大学同窓会事務局
新潟市西区五十嵐2の町 8050
Tel Fax: 025-263-6760
（火～金曜 13時～17時）
mail:dousou@ed.niigata-u.ac.jp

教育新報 第 183 号　発行人　臼杵　勇人　事務局　新潟大学教育学部内 TEL (025) 263-6760　印刷所　阿部印刷株式会社